

トゲアリ

Polyrhachis lamellidens F. Smith
ハチ目・アリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

もともと県内では広く分布が確認されており、今回の調査でも嶺北を中心に広く生息が確認された。全国的には減少しており、本県としても注視が必要と判断した。

種の特徴

体長7～8mm。前胸・中胸・前伸腹節、腹柄節に刺状突起を持ち、特に腹柄節の突起は釣針状で大きい。低山地の里山を生息環境として特に好む。クロオオアリとムネアカオオアリの巣に一時的社会寄生を行う。立木の空洞の中に営巣。アブラムシの甘露等を餌とする。

分布

本州～九州に分布。県内では大野市、勝山市、池田町、南越前町、敦賀市、若狭町、おおい町、高浜町で記録があった。今回、福井市、越前町、大野市で新産地が見つかった。

生息を脅かす要因

里山林の開発、分断や森林の乾燥化が本種の生存を脅かす要因とされる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、日本産アリ類データベースグループ（2003）、寺山・久保田（2009）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○			○	○	○	○						○	○	○

スギハラクモバチ

Leptodialepis sugiharai (Uchida)
ハチ目・クモバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

県内では広く確認されている。埼玉県、千葉県、京都府、岡山県の各府県で減少の報告があることと、一方で、南方系の種であり、県内では温暖化による分布拡大が確認されていることから、今後の分布域の変化に注視が必要である。

種の特徴

体長19～28mm。黒色で光沢がある。翅は黄褐色で外縁および後翅の後縁は暗色。メスでは顔面と頭楯全体が鮮やかな黄色。巨木の朽材中に営巣し、アシダカグモ等徘徊性のクモを狩る。

分布

本州～九州、奄美大島に分布。県内では福井市、永平寺町、大野市、敦賀市、美浜町、旧大飯町や若狭町烏辺島で記録があった。今回は、嶺北を中心に広く確認された。

生息を脅かす要因

森林伐採や開発等、営巣場所となる古老木や朽木の減少が脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、羽田（2001）、羽田ら（2005）、平嶋・森本（2008）、環境省（2015）、黒川（2002）、室田ら（2008a）、室田ら（2008b）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○		○	○		○	○	○	○		○	○	○	○

ムツボシクモバチ

Anoplius viaticus (Linnaeus)
ハチ目・クモバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査では確認できず。2002年以降記録がなく、県内の生息については十分な情報がない。栃木県、東京都、千葉県、神奈川県、京都府の各都府県で減少が報告されていることから、本県でも今後注視をしていく必要がある。

種の特徴

体長8～15mm。黒色で第1～3腹節に3対の橙赤色の斑紋をもつ。主に河川敷に生息し、ハラクロコモリグモ等を狩る。新成虫は秋に出現し、メスのみ越冬して翌春、地中に巣を作る。

分布

本州、九州に分布。県内ではこれまでに大野市菖蒲池でのみ記録がある。今回は同地点と同地点に環境に近い勝山市下荒井で調査が行われたが、本種は確認できていない。

生息を脅かす要因

土地造成、河川改修等による生息環境の変化が脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、平嶋・森本（2008）、環境省（2015）、京都府自然環境保全課（2015）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	